一　次の文章を読んで後の問に答えよ。

何故に旅は遠いものであるか。（ア）のものに向かってゆくことであるゆえに。日常の経験においても、知らない道を初めて歩く時には実際よりも遠く感じるものである。仮にすべてのことが全くよく知られているとしたなら、日常の通勤のようなものはあっても本質的に旅というべきものはないであろう。旅は（イ）のものに引かれてゆくことである。（A）旅には漂泊の感情が伴ってくる。旅においてはあらゆるものが（ウ）であるということはあり得ないであろう。（B）そこでは単に到着点あるいは結果が問題であるのでなく、（C）過程が主要なのであるから。途中に注意している者は必ず何か新しいこと、思い設けぬことに出会うものである。旅は習慣的になった生活形式から脱け出ることであり、かようにして我々は多かれ少なかれ新しくなった眼をもって物を見ることができるようになっており、そのためにまた我々は物において多かれ少なかれ新しいものを発見することができるようになっている。平生見慣れたものも旅においては目新しく感じられるのがつねである。旅の利益は単に全く見たことのない物を初めて見ることにあるのでなく、―全く新しいといい得るものが世の中にあるであろうか―むしろ平aソ自明のもの、既知のもののように考えていたものに驚異を感じ、新たに見直すところにある。我々の日常の生活は行動的であって到着点あるいは結果にのみ関心し、その他のもの、途中のもの、過程は、既知のもののごとく前提されている。毎日習慣的に通勤している者は、その日家を出て事務所に来るまでの間に、彼が何を為し、何に会ったかを①おそらく想い起こすことができないであろう。（D）旅においては我々は純粋に観想的になることができる。旅する者は②為す者でなくて見る人である。かように純粋に観想的になることによって、平生既知のもの、自明のものと前提していたものに対して我々は新たに驚異を覚え、あるいは好奇心を感じる。旅が経験であり、教育であるのも、これによるのである。

人生は旅、とはよくいわれることである。芭蕉の奥の細道の有名な句を引くまでもなく、これは誰にも一再ならず迫ってくる実感であろう。人生について我々が抱く感情は、我々が旅において持つ感情と相通ずるものがある。それは何故であろうか。

何処から何処へ、ということは、人生の根本問題である。我々は何処から来たのであるか、そして何処へ行くのであるか。③これがつねに人生の根本的な謎である。そうである限り、人生が旅のごとく感じられることは我々の人生感情として変わることがないであろう。いったい人生において、我々は何処へ行くのであるか。我々はそれを知らない。人生は（エ）のものへの漂泊である。我々の行き着くところは死であるといわれるであろう。それにしても死が何であるかは、誰も明瞭に答えることのできぬものである。何処へ行くかという問いは、bヒルガエって、何処から来たかと問わせるであろう。過去に対する配慮は未来に対する配慮から生じるのである。漂泊の旅にはつねにさだかにcトラえ難いノスタルジアが伴っている。人生は遠い、しかも人生はあわただしい。④人生の行路は遠くて、しかも近い。死は刻々に我々の足もとにあるのであるから。しかもかくのごとき人生において人間は夢みることをやめないであろう。我々は我々の想像に従って人生を生きている。人は誰でも多かれ少なかれユートピアンである。旅は人生の姿である。旅において我々は日常的なものから離れ、そして純粋に観想的になることによって、平生は何か自明のもの、既知のもののごとく前提されていた人生に対して新たな感情を持つのである。旅は我々に人生を味わわさせる。あの遠さの感情も、あの近さの感情も、あの運動の感情も、私はそれらが客観的な遠さや近さや運動に関係するものでないことを述べてきた。⑤旅において出会うのはつねに自己自身である。自然の中を行く旅においても、我々は絶えず自己自身に出会うのである。旅は人生のほかにあるのでなく、むしろ人生そのものの姿である。

三木清『人生論ノート』による

問一　a～cのカタカナの部分の漢字を使った熟語として最も適当なものをそれぞれ①～④の中から選び記号で答えよ。

解答番号 a 1　b 2　c 3

a ソ　①疎遠　②祖先　③素朴　④租税
b ヒルガエ　①自省　②顧問　③翻意　④返事
c トラ　①把捉　②促進　③束髪　④握力

問二　（A）～（D）の中に入る語として最も適当なものをそれぞれ①～④の中から選び記号で答えよ。

解答番号 A 4　B 5　C 6　D 7

（A）①よしんば　②ところが　③さらに　④それだから
（B）①もっとも　②しかるに　③なぜなら　④かりにも
（C）①さらに　②むしろ　③したがって　④しかるに
（D）①なぜなら　②しかるに　③むしろ　④それゆえ

問三　（ア）～（エ）の中に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものをそれぞれ①～④の中から選び記号で答えよ。　解答番号 8

① ア 未知　イ 既知　ウ 既知　エ 未知
② ア 未知　イ 既知　ウ 既知　エ 未知
③ ア 未知　イ 未知　ウ 未知　エ 既知
④ ア 未知　イ 未知　ウ 既知　エ 未知

問四　傍線部①「おそらく想い起こすことができない」の理由として最も適当なものをそれぞれ①～④の中から選び記号で答えよ。　解答番号 9

① 習慣的な通勤では、人は眺める人になり、すぎていく景色がめまぐるしく変わるから
② 習慣的な通勤では、周囲のものが当然知り尽くされた物として意識されているから
③ 習慣的な通勤では、情緒的に行き来するため出会った事柄を覚える意志がないから
④ 習慣的な通勤では、慣れるに従って通勤する毎に次第に距離が短く感じられるから

問五　傍線部②「為す者でなくて見る人である」の説明として最も適当なものをそれぞれ①～④の中から選び記号で答えよ。　解答番号 10

① 人を感動させるために活動的に動く人ではなく、沈思黙考して自己の内面を深める人
② 物事に対して邪念や悪意を抱かず純粋な心でとらえようとするまじめで正直な人
③ 目的を持って行動する人ではなくて、物事の本質的にとらえようとよく考える人
④ 世間で何かを成し遂げて成功する人ではなく、世間の流れを見抜いて意見を言う人

問六　傍線部③「これがつねに人生の根本的な謎である」の理由として最も適当なものをそれぞれ①～④の中から選び記号で答えよ。　解答番号 11

① 「何処から何処へ」という疑問は、生きているうちに誰にも何度も迫ってくる実感であり、松尾芭蕉でさえもその答えを出していないから
② 「何処から何処へ」という疑問は究極の目的地「死」を暗示するが、避けることのできない「死」を生きている我々は誰も説明できないから
③ 「何処から何処へ」という疑問は、生命の起源や人間存在の意味、生や死の意味についてについて考えさせ、永遠に未解決の問題を提示するから
④ 「どこから来たか」と「どこへ行くか」は表裏一体の疑問であるが、あまりにも哲学的な問いであるために根本的理解が不可能であるから

問七　傍線部④「人生の行路は遠くて、しかも近い」の理由として最も適当なものをそれぞれ①～④の中から選び記号で答えよ。　解答番号 12

① 人生は未知のものに向かうから遠く感じられ、また人生が常に慌ただしい過程だから近く感じられる
② 人生は予測がつかないから遠く感じられ、常に仕事などに追いかけられるから近く感じられる
③ 平均寿命が長いから人生は遠く感じられ、死がいつ訪れるか誰にも予測できないから近く感じられる
④ 夢を抱き続けるから人生が遠く感じられ、常に忙しく人との出会いを繰り返すから近く感じられる

問八　傍線部⑤「旅において出会うのはつねに自己自身である」の理由として最も適当なものをそれぞれ①～④の中から選び記号で答えよ。　解答番号 13

① 旅に出ると観想的になり、普段は当たり前と思い留意していない自分自身に思いを凝らすことによって自覚しなかった自分自身に気づくから
② 旅に出ると我々は多かれ少なかれ好奇心を抱き何事にも好奇の目で接するようになるため新しくなった自分に出会うから
③ 旅に出るとノスタルジアを感じるので昔を懐かしく思い出し、忘れていた思い出の中の自分や家族や幼なじみに再会することができるから
④ 旅においては人は誰でも夢見るユートピアンであるので、日頃意識していない自分自身のことまでも誇大に空想するようになるから

二　次の文章を読んで後の問に答えよ。

中国の古い寓話に、Ⅰ「人間万事、塞翁が馬」というのがある。国境近くに住む塞翁と呼ばれる老人の馬が逃げて、国境を越えてしまった。近所の人が気の毒がった。すると、老人は、「これがかえって幸いになるかも知れん」と言った。数カ月したら、逃げた馬が隣の国の良い馬をつれて、ひょっこり戻ってきた。近所の人がみな「お芽出とう」というのに、老人は、「何か悪いことがあるかも知れん」と言う。間もなく息子が馬から落ちて足をくじいて、足が不自由になってしまった。近所の人たちは、大いに同情したが、老人は、「いや、またいいことがあるかも知れん」と言う。一年ほどしたら、隣国との間に戦争が起った。近所の若い人たちは兵隊としてAカり出され、大抵は死んでしまった。息子は足が不自由だったために、戦場に行かずにすんだ。

この話を現代にあてはめてみたら、どうなるか。たとえば、つい近ごろまで、日本の経済の高度成長がずっと続くのを、喜ぶのが当り前であった。しかし、その次に来たのは、公害や自然破壊の重大化であった。米の大豊作が毎年毎年続いたのは、大いに喜ぶべきことのはずであった。しかし、その次に来たのは、古米、古々米の累積であった。それらの間のBイン果関係ーあるいは、Cイチジルしい相関関係は、今となっては誰の目にも明らかである。しかし、事前にそれを察知していた人がどれだけあったか。対策を用意していた人がどれだけあったか。私はよく知らない。（ア）そういう意見に耳を傾ける人が多くなかったことは確かである。

昔の人の大多数は、同じような生活が、いつまでも続くと、ほとんど無意識的に信じていたろうと思う。実際、変化のテンポの非常に遅い時代に生きていた人たちにとっては、そう思いこむのが当然であったろう。世の中の変化の速い現代に生きる人たちは、もう少し違う考え方に、知らず知らずの間になっている。同じ状態がそのまま続くというよりは、（イ）状態の変化してゆく方向が同じだろうと思いこみやすくなっているのではないか。（ウ）経済成長がどこまでも続くと思う。それに伴って生活も、ますます便利になり、豊かになり続けると思う。しかし、そういう一方向的傾向が、限りなく続くはずは、本来なかったのである。

人間の営みは、すべて有限にとどまらざるを得ない。月まで行くことはできたが、そこで長い間、暮すことはもっとずっと困難である。それができたとしても、それを実行するのは、非常に少数の人に限定されざるを得ないであろう。（エ）今後、長期にわたって人類は、地球を自分たちのほとんど唯一の住家とせざるを得ないであろう。

その地球は、今や、いろいろな意味で、人類にとって狭くなりすぎたのである。人口はますます増大しつつあるが、資源はもはや無Dジン蔵とは言えなくなっている。それどころか、人間による地球的環境の汚染は、急速に進みつつある。日本では、大自然という言葉が好んで使われてきた。広大な宇宙全体を見れば、今日といえども、大自然という表現が不適当とは言えない。しかし、人間の生活に直接かかわりあいのある環境としての自然は、もはや無限大とは見なし得なくなってきた。そういう意味では、①もはや大自然とはいえなくなってきたのである。環境無限大論は成り立たなくなってしまったのである。むしろ地球を一つの宇宙船、三十六億の人類を乗せて大空を飛ぶ宇宙船にたとえる方が、適切になってきたのである。

三十六億の乗員は、毎日毎日、大量の廃棄物、排泄物で、この宇宙船を汚染しつつあったのである。気がついたら、大変なことになっていたのである。人類の未来は、そして、特に②日本のように人口密度も工業生産力も大きい国の未来は、人間自身のつくりだす莫大な汚染物質の処理という大事業の成功の程度に、大きく依存せざるを得なくなっているのである。

ここまでは、私が改めて言うまでもなく、すでに多くの人によって、繰返し議論されていることである。私は、むしろ③「塞翁が馬」の話から、もっと違った教訓をひきだしたいのである。それは塞翁という老人が、常に少数意見の代表者であったという点である。今日では、生産増大よりも公害防止、自然環境保全を重要視すべしという考え方は、もはや少数意見ではなくなった。それはそれでよいが、人間の未来には、恐らく、もっとほかにも、いくつかの大変な問題が待ち構えているに違いないのである。その中には、すでに何人かの人によって、指摘されているものがある。たとえば、医学や生物学の進歩がひきおこすであろうさまざまな問題がある。その一部は、臓器移植などの形で、すでにEシュウ知のことになっているが、今後は、もっと深刻な問題が、いろいろと出てくるであろう。

今のところは、それらの多くは、少数の人たちのⅡ取越し苦労に過ぎないと思われやすいのである。しかし、あまりにも変化の速い、混迷の現代に生きる私たちは、その時々の多数意見をⅢ鵜呑みにするのではなく、未来に対する真剣な憂慮に根ざす少数者の意見にも、耳を傾けることを怠ってはならないであろう。それは、私たち一人一人が、未来に向って、よりよく生きてゆくためにも、また、日本のよりよき将来のためにも、さらには、人類の存続のためにも、必要なことであろう。

湯川秀樹『詩と科学』による

問一　波線部A～Eのカタカナの部分の漢字を使った熟語として最も適当なものをそれぞれ①～④の中から選び記号で答えよ。　解答番号A 14　B 15　C 16　D 17　E 18

A カ　①仮装　②借家　③駆使　④狩猟
B イン　①隠匿　②印章　③陰険　④因習
C イチジル　①顕著　②知恵　③叡智　④賢明
D ジン　①仁徳　②陣屋　③尋問　④尽力
E シュウ　①執念　②衆議　③周旋　④終焉

問二　傍線部I～IIIの意味として最も適当なものをそれぞれ①～④の中から選び記号で答えよ。　解答番号I 19　II 20　III 21

I 人間万事、塞翁が馬
①賭け事などで人生を棒に振るのは損だ　②人間の浅ましさは他の動物と同じだ
③人生の禍福は変転して定まりない　④人間のすることは老若に関係なく同じだ

II 取越し苦労
①何年間も長く苦労が続くこと　②将来のことを考えて余計な心配をすること
③老人になってから意外な苦労をすること　④苦労と言うほどのものでない労力

III 鵜呑み
①よく考えもせずそのまま受け入れること　②好き嫌いをせず誰とでも仲良くすること
③よく選別して慎重に受け入れること　④相手の意見を素早く理解する頭の良さ

問三　（ア）～（エ）に入る言葉として最も適当なものをそれぞれ選び記号で答えよ。　解答番号ア 22　イ 23　ウ 24　エ 25

（ア）①ただ　②だから　③おそらく　④まるで
（イ）①かりにも　②なぜなら　③もっとも　④むしろ
（ウ）①たとえば　②もし　③さらに　④しかし
（エ）①まして　②しかるに　③むしろ　④だから

問四　傍線部①「もはや大自然とはいえなくなってきた」の説明として最も適当なものを①～④の中から選び記号で答えよ。　解答番号 26

① 科学技術のめざましい発達によって月まで人間が行く時代となり、宇宙規模でものを考えるために地球が小さく感じられるということ
② すべてを飲み込み、浄化吸収してきた地球の力がその温暖化によって力を失い、人間生活に支障をきたすようになったということ
③ 人間に恩恵を与え続け、人間の仕業の結果のすべてをゆだねてもそれを浄化し、再生してきた地球の能力が限界に来ているということ
④ 自然は人間にとって統御できない神秘的なものだったが、人間の進めてきた科学技術によって、統御できるようになったということ

問五　傍線部②「日本のように人口密度も工業生産力も大きい国の未来は、人間自身のつくりだす莫大な汚染物質の処理という大事業の成功の程度に、大きく依存せざるを得なくなっている」の説明として最も適当なものを①～④の中から選び記号で答えよ。　解答番号 27

① 国際的な環境保全の条約は現実的には効力がなく、各国がそれぞれに持つ環境汚染問題をそれぞれの国で独自に解決できるかどうかが国造りの重要課題となった
② 科学技術が進み、先進工業国といわれる国々はその恩恵として豊かな生活を送るようになったが、時代遅れとなった環境対策では環境汚染に追いつけないでいる
③ 経済的高度成長の永続性は多くの人に信じられたが、いわゆる公害病で死者を出しても環境汚染に対する国民の意識が低く、国としては無策の時代が続いている
④ 昔は自然に任せておけば浄化された汚染物質が、近年その質量ともに増大してきたため、国策としての環境汚染対策がなければ未来の国家プランが成り立たなくなった

問六　傍線部③「『塞翁が馬』の話から、もっと違った教訓をひきだしたいのである」とあるが、筆者がひきだしたい教訓として適切でないものを次の①～④の中から一つ選び記号で答えよ。　解答番号 28

① 変化が速く、混迷時代といわれる現代は未来に対する憂慮などしている暇がない
② 未来に対する真剣な憂慮に根ざす少数者の意見を尊重されてしかるべきである
③ 大多数が進歩だとして肯定していることが真に進歩であるか検証するべきである
④ 今後の科学技術の発達を手放しで喜ぶことに対しては、はなはだ疑問である

三

次のA～I言葉の意味として最も適当なものをそれぞれ①～④の中から選び記号で答えよ。

A おしなべて　解答番号 29
① 総じて　② おそらく　③ しばらく　④ 特別に

B おっとり刀　解答番号 30
① 敵から奪った武器　② 構えに余裕のある様子　③ 仕草が上品な様子　④ 急いで駆けつけた様子

C 辛辣な　解答番号 31
① 陰湿な　② 手厳しい　③ 悲観的な　④ おもしろ

D 二足のわらじを履く　解答番号 32
① 普段から災害に備えること　② 言うことと本心が違うこと　③ 二つの仕事を掛け持ちすること　④ 人手不足で大変忙しいこと

E 風采のあがらない男　解答番号 33
① 金がなさそうな男　② 見かけがよくない男　③ 意欲の高くない男　④ 努力の報われない不運な男

F 昔取った杵柄　解答番号 34
① 昔押された印鑑　② 昔立てた手柄　③ 昔しでかした失敗　④ 昔身につけた技術

G 気の置けない人　解答番号 35
① 気分を害さず対応できる人　② 緊張してくつろげない人　③ 気配りのある優しい人　④ 遠慮せず気楽につきあえる人

H 筋金入りの人　解答番号 36
① 心身共に鍛えられた人　② 金銭ずくで動く　③ 話の筋道がわかりやすい人　④ 頑固で偏屈な人

I 躍起になって　解答番号 37
① 優しくさとすように　② 驚いてあきれたように　③ 焦ってむきになって　④ 怒って威圧する態度で

四

次のA～Iの明治以降の文学的事項と最も関係の深い人物を後の①～⑨の中から選び記号で答えよ。

A 写実主義　解答番号 38
B 擬古典主義　解答番号 39
C 浪漫主義　解答番号 40
D 自然主義　解答番号 41
E 耽美派　解答番号 42
F 余裕派　解答番号 43
G 白樺派　解答番号 44
H 新思潮派　解答番号 45
I 新戯作派　解答番号 46

① 島崎藤村　② 北村透谷　③ 尾崎紅葉　④ 坪内逍遙　⑤ 永井荷風
⑥ 芥川龍之介　⑦ 夏目漱石　⑧ 志賀直哉　⑨ 太宰治

五

次のA～Iの□の中に漢字を入れて四字熟語として完成させよ。答えはそれぞれ①～④の中から選び記号で答えよ。

A 隠□自重　解答番号 47　① 雲　② 密　③ 忍　④ 遁
B 雲□霧消　解答番号 48　① 海　② 晴　③ 散　④ 泥
C □色兼備　解答番号 49　① 赤　② 才　③ 七　④ 五
D 深□遠慮　解答番号 50　① 謀　② 海　③ 淵　④ 深
E □顔一笑　解答番号 51　① 泣　② 紅　③ 一　④ 破
F 山紫水□　解答番号 52　① 明　② 清　③ 没　④ 青
G 神出□没　解答番号 53　① 病　② 沈　③ 鬼　④ 仏
H 信賞必□　解答番号 54　① 勝　② 罰　③ 死　④ 然
I □辞麗句　解答番号 55　① 式　② 世　③ 華　④ 美